



向井潤吉<春風>(埼玉県東松山市神戸)昭和63年 カンヴァス・油彩

武蔵野

ふたつの憧憬 向井潤吉／師岡宏次



師岡宏次<優しい>(練馬区東大泉)昭和42年 ゼラチン・シルヴァー・プリント

2008年4月5日[土]－7月27日[日]

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

関東平野の一角をなす武蔵野は、丘陵、河川に恵まれた沃野です。その多様な地形から生まれる四季折々の姿に、古くから人々は魅了されてきました。

江戸時代の新田開発によって生まれた雑木林の繁る田園風景は、武蔵野を象徴する景色となりました。近代以降、国木田独歩や徳富蘆花らによってその美が見出され、武蔵野という言葉に対する憧憬は、今なお私たちの心に響いているように思います。

本展では、武蔵野に魅せられた画家・向井潤吉（九〇―一九九五）と写真家・師岡宏次（九一―一九九二）の二人を取り上げます。昭和十年代から戦後の復興期、さらに開発の激化する昭和六〇年代にかけて、武蔵野をモチーフとした絵画と写真を紹介いたします。

向井潤吉は、埼玉の川越、東松山、飯能、そして東京の奥多摩などの武蔵野西へたびたび訪れ、民家とその風土を描きました。中でも、穏やかな早春の情景を好み、自然に寄り添いながら営まれるくらしの姿を、瑞々しい色彩をもつ情趣豊かに表しています。

師岡宏次は、世田谷、練馬、奥多摩、埼玉など武蔵野をわたり歩き写真に収めました。武蔵野の歴史や風土にも強い関心を寄せ、その調査を重ねながら、世田谷区粕谷に繁る雑木林、練馬区大泉に広がる麦畑、新座市平林寺の野火止用水など、今では見ることも稀となった武蔵野の姿を見つめました。そこに潜む美は、研ぎ澄まされた彼の視覚を通じて、豊かな陰影の世界として残されました。

向井潤吉と師岡宏次。彼らはほぼ時を同じくして、失われ行く風景の中に、自然と人間の調和を見出していたのでしよう。ふたりの武蔵野への深き憧憬と、その交錯するまなざしを、ご覧ください。



1



2



3



4



5



6

武蔵野

ふたつの憧憬 向井潤吉／師岡宏次

向井潤吉

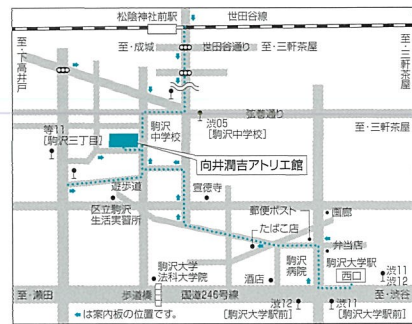
- 1. <武蔵野丘径> (埼玉県比企郡嵐山町) 昭和49年 カンヴァス・油彩
- 2. <暮林秋夕> (埼玉県大里郡川本町) 昭和52年 カンヴァス・油彩
- 3. <早春の水路> (埼玉県川越市新河岸) 昭和57年 カンヴァス・油彩

師岡宏次

- 4. <夕暮れ> (調布市深大寺) 昭和10年 ゼラチン・シルヴァー・プリント
- 5. <麦のデザイン> (練馬区大泉) 昭和16年 ゼラチン・シルヴァー・プリント
- 6. <残照> (世田谷区) 昭和30年 ゼラチン・シルヴァー・プリント

2008年4月5日[土] - 7月27日[日] 世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

●お問い合わせ／〒154-0016 東京都世田谷区張巻2-5-1 TEL:03-5450-9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/> ●開館時間／10:00～18:00(入館は17:30まで) ●休館日／毎週月曜日(休日と重なった場合は翌日。ただし、4月28日(月)は開館。) ●観覧料／一般200円(160円)、高校・大学生150円(120円)、小・中学生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円) ※()内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日無料。※障害者で小・中・高・大学生、及び障害者の介護者(当該障害者一人につき、一人に限る)は無料。 ●最寄交通機関のご案内／東急田園都市線「駒沢大学」駅西口 徒歩10分・東急バス(渋谷)渋谷～張巻営業所「駒沢中学校」徒歩3分・東急バス(等11)祖師谷折返所～等々力「駒沢三丁目」徒歩3分・東急バス(渋谷)渋谷～田園調布「駒沢大学駅前」徒歩10分・東急バス(渋谷)渋谷～二子玉川「駒沢大学駅前」徒歩10分



本館情報 世田谷美術館：〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代)

- 企画展 「冒険王・横尾忠則展」4月19日(土) - 6月15日(日)
- 「建築のみる夢 - 石山修武と12の物語 -」6月28日(土) - 8月17日(日)
- 収蔵品展 「チルドレンズミュージアム 物語が聞こえる - まくたちのお気に入り」6月27日(金) - 9月7日(日)

分館情報 会期：4月5日(土) - 7月27日(日)

- 清川泰次記念ギャラリー 〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202
- 「大東京 - 清川泰次が写した昭和十五年のメロポリス -」
- 宮本三郎記念美術館 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836
- 「『最初に引いた一線は、最も新鮮な効果があるものだ』 - 宮本三郎の線 -」